



デジタルイノベーションを支える ソフトウェア技術特集に寄せて

富士通株式会社 執行役員

今田 和雄

今、デジタルテクノロジーが推進力となって、社会のいたるところで新たな変革が始まっています。「人」「モノ」「プロセス」など、あらゆるものがつながることで、新たなデータが生み出され、人工知能（AI）によって新たな知見を生み出すことが可能になってきています。これらのデジタルテクノロジーが生み出す知見を活用することによって、人は創造的に働き、企業は経営の高度化や顧客満足度の向上、あるいは商品競争力の強化を図ることが可能になりました。デジタルテクノロジーが、新たなビジネスの創造や社会問題解決の可能性を広げています。

富士通は、2015年に新しいインテグレーションコンセプト「FUJITSU Knowledge Integration」を提唱し、翌年には共創のサービス体系を発表しました。2017年には、デジタルビジネスの変革に向け、お客様とともに歩んでいく専門組織としてデジタルフロントビジネスグループを設立しました。この新たな専門組織では、デジタルテクノロジーの専門知識を持つ人材（デジタルイノベーター）の育成と、お客様との共創で培ったノウハウをベースに、デジタルテクノロジーのインテグレーションを実践してまいります。

今、デジタルイノベーションには、四つの潮流があると言われています。既に「産業・事業のデジタル化」の領域では、「Financial Services Solution Finplex」や「Manufacturing Industry Solution COLMINA」といったソリューションを提供しております。2017年11月には「顧客関係のデジタル化」の領域において、「Customer Engagement Solution CHORDSHIP」を発表し、提供を開始しています。今後は、「組織・働き方のデジタル化」「社会・経済のデジタル化」といった領域に対しても、順次ソリューションを提供してまいります。

本特集号では、デジタルイノベーションの四つの潮流を中心に、デジタルテクノロジーと人との協調を実現する実践事例やソリューション、およびデジタルイノベーションを支えるソフトウェア技術をご紹介します。